

いのちの年齢 — 数え年 満年齢は戸籍上 — (四版)

いちねんおき おおみそか
一年納めの大晦日

としと す しょうがつ
年取り過ぎし正月に

がんとん あら としくわ
元旦新たに歳加え

あら とし のぞ
新たな年に望みなん

われらう いじょう
我等生まれはゼロ以上

しんじんとうと う
身心貴く生まれたり

とつき とおか やど
十月十日は宿れども

ふぼ みしやう う
父母の未生にいのち受く

そせん いのち ひと
祖先の命を一つとし

あら とし よ ひと
新たに歳を世の人と

とも くわ としと
共に加えん年取らん

う とし いっさい
生まれた年に一歳と

かぞ い ここ
数える謂われ此処にあり

プラスの生命

命の原点は遙か昔

とうやうしよこく きやうつう
東洋諸国で共通

宮城県大崎市 瑞川寺住職 木村謙文